# 薬師寺まほろば塾 二十周年記念
# 第57回薬師寺まほろば塾・奈良塾 令和6年5月6日（月・祝）開催

日本人の心のあり方について考える「薬師寺まほろば塾」の奈良塾（法相宗大本山薬師寺、読売新聞社主催）が6日、奈良市の薬師寺で開かれた。人形作家のホリ・ヒロシさん（66）が考案した「人形舞」と、古代の仮面劇「伎楽」で、寺ゆかりの高僧・玄奘三蔵の生涯を描いた舞台が奉納され、約400人を魅了した。ホリさんの講演や、塾長を務める岡寺の加藤朝胤管主の法話も行われた。

薬師寺まほろば塾

美女の誘惑を受けた玄奘は、経典を取り出して祈りをささげ、危機を脱する

「西遊記」の三蔵法師のモデルとなった唐の名僧・玄奘三蔵の生涯をたどる「玄奘三蔵 求法の旅」では、ホリさんが操る人形の玄奘が、伎楽と共演。20歳代半ばで天竺への旅を始め、664年に亡くなるまでの玄奘の足跡を、優雅かつ迫力たっぷりに描いた。

仏教の原典を求めた玄奘は、国禁を破って出国し、天竺（インド）を目指す。灼熱の砂漠を歩き続け、猛獣に襲われたり、争いに巻き込まれたりといった危機を乗り越え、ついに経典を唐に持ち帰る。ひたすら翻訳に努め、日本の法相宗の祖となる道昭に教えを受け継いでいく。

伎楽は、毎年5月に行われる「玄奘三蔵会大祭」で奉納されるが、ホリさんの「人形舞」との共演は今回が初めて。舞台では、精悍な顔立ちの玄奘を中心に、玄奘を酒宴に誘う赤ら顔の「酔胡王」、玄奘を誘惑するふくよかな美人の「一具女」ら仮面姿の登場人物が躍動。雲鳥の「迦楼羅」、玄奘らを見守る「観自在菩薩」の人形もホリさんが制作し、幻想的な世界を演出した。場面の節目ごとに会場は拍手に包まれた。

求法の旅に出た玄奘（左）を、観自在菩薩が見守る

## 姿消していた伎楽

伎楽の上演に先立ち、演出を担当した天理大雅楽部総監督の佐藤浩司・同大学名誉教授＝写真上＝と、衣装製作を担った染司よしおか（京都市）6代目の染織家吉岡更紗さん＝同下＝が、登場人物を紹介するとともに、伎楽の歴史や衣装の特徴を解説した。

佐藤名誉教授は、伎楽は聖徳太子の時代に日本へ伝わり、752年の東大寺大仏開眼法要でも奉納されたものの、その後姿を消した歴史や、1980年に東大寺大仏殿の修理が完了した際の落慶法要で復元されたことを説明。吉岡さんは、正倉院に残る奈良時代の伎楽面や織物片なども参考に、古来の織り方や染色方法を再現していると明かした。

# 伎楽×人形舞

## 心を正しく導く教え

### 薬師寺管主 加藤朝胤塾長

かとう・ちょういん　薬師寺まほろば塾塾長。1949年、愛知県生まれ。23歳で入山し、高田好胤和上に師事。日本大法学部、龍谷大文学部卒。2019年から管主。薬師寺宝物管理研究所主任研究員も務める。著書に「唯識　これだけは知りたい」など。

玄奘三蔵は13歳でお坊さんになり、唯識の教えが書かれた「瑜伽師地論」を漢訳した書物に出会いました。お釈迦さまの教えで一番基本的なものをまとめたものですが、玄奘三蔵は十分に理解ができませんでした。そのため原本を読み、翻訳しようとインドへの求法の旅に出ました。

中国から草も生えないゴビ砂漠を経て、西へ、西へと向かわれました。その時、目的を達成するまで一歩たりとも東には進まない、という不退転の決意をしました。

「不東」の精神です。

インドに着くと、ナーランダ寺で5年間にわたって唯識を教わりました。そして経典を持ち帰り、帰国後は懸命に翻訳され、その数は1人で1335巻に及びました。第2次遣唐使船で入唐した道昭は、玄奘三蔵から直接唯識の教理を学び、日本に戻りました。その教えが届いたのが薬師寺です。

唯識とは心の見方です。例えば、みかんのジュースを甘いと思うか、酸っぱいと思うかはその人次第ですもとは変わりませんが、人の心がそれを変えます。ペットボトルの形を描いてくださいと言われた時、大半の人は縦長の形を描きますが、上から見れば円形です。見方によって形は変わります。そういった心を正しい方向に導く教えが唯識なのです。

玄奘三蔵の遺骨は、薬師寺の玄奘三蔵院伽藍でおまつりしています。寺では毎年、玄奘三蔵を顕彰する法要を勤めています。皆さまにもぜひお参りいただきたいと思います。

## 志貫いた若き日の顔

### 人形作家 ホリ・ヒロシさん

ほり・ひろし　1958年、神奈川県生まれ。18歳で人形制作を始め、等身大の人形を自らが遣って舞う「人形舞」を創始。91年に東京都民文化栄誉章を受けた。日本舞踊吾妻流の名取で、衣装デザイナーとして舞台や映画衣装を手がけるなど、多方面に活躍する。

新型コロナウイルスで玄奘三蔵会大祭での伎楽奉納が中止されていた3年前、玄奘役を人形舞で上演するお話をいただきました。

いざ人形を作るにあたって、イメージをどうつかもうかと考えました。玄奘は当時としては珍しく、身長が180㌢もあったとされます。身一つで天竺まで歩いた、屈強な若者だったわけです。そこで、旅を始めた20歳代の顔を作れば、若い頃の心を最後まで持ち続けたであろう生涯を表現できるのでは、とひらめきました。

伎楽の奉納は1992年から続いていますが、歴代の玄奘役は俳優が務めていて、今回、初めて人形で演じました。ほぼ1人で1体の人形をつかうのが、「人形舞の世界です。人形を装着して歩くと、動きがそのまま伝わります。この人形の重さは23㌔もありました。

薬師寺とは深いご縁があります。30年以上前、東京で開いた人形展に、管主だった高田好胤和上が来られました。工房にご覧になり、お経を唱えて、人形にお霊魂を供えてくださいました。

その後、私は薬師寺東京別院に通ってお写経をするようになりました。ずるずると、高田和上がインドで買い求めたという織物を贈ってくださいました。「いつか人形の衣装に使ってください」と言われ、ここぞという時に使おうと思っていたものです。今回、襟や袖口に使わせていただきました。

ほかにも、玄奘の衣装に使った深緑色や鶸金色の布は、寺に保管されていた法衣を縫い込めました。皆さまとご一緒できて光栄です。

# 玄奘 不退転の旅

## 文化や心 大切に

### 牧野明次・推進の会会長（岩谷産業会長兼CEO）

現在の社会が抱える問題は、高田好胤和上の「物で栄えて心で滅びる」という言葉の通り、物質的な豊かさを追い求め、文化や心をおろそかにした結果かもしれません。まほろば塾での学びが、心の豊かさを取り戻す一助になると信じています。

## 美しい心 今こそ

### 柴田岳・読売新聞大阪本社社長

地震や戦争で多くの命が失われています。「まほろば」は優れた美しいところの意味がありますが、今こそ必要な心持ちと思います。まほろば塾が世界と日本の被災者に思いをはせ、まほろばの心を見つめ直すきっかけになればと願います。

※会員募集
「薬師寺まほろば塾推進の会」は会員を募集している。年会費（1口）は個人6000円、法人30万円。

※三重塾
11月15日午後1時から、三重県総合文化センター（津市）で開催。上野誠・国学院大教授（万葉文化論）がゲストで登壇する。参加費2000円。

※出張講座
薬師寺まほろば塾は、大阪、神戸、和歌山で「法話とお写経の会」を開いている。法話を聴き、般若心経を書写する。参加費は1500円（推進の会会員は無料）。写経は納経料2000円。日程は次の通り。

【大阪】読売大阪ビル地下1階「ギャラリーよみうり」（大阪市北区、午後1時から受け付け）▽6月6日▽9月6日▽12月6日

【神戸】よみうり神戸ホール（神戸市中央区、午後1時から受け付け）▽6月4日▽9月7日

【和歌山】和歌山県民文化会館（和歌山市、午後1時10分から受け付け）▽8月28日

◇
推進の会、法話とお写経の会の問い合わせは、事務局（0742・33・8942）へ。

薬師寺まほろば塾に協賛しています（順不同）
〈近畿〉
岩谷産業
サントリーホールディングス
近鉄百貨店
パナソニックホールディングス
大阪シティ信用金庫
ワコールホールディングス
今日庵
小山
佐藤木材
〈中部〉
トヨタ自動車
東海旅客鉄道
東海理研
〈関東〉
ウェルリンク
ヒノキ新薬
エヌエスティ・グローバリスト
薬州茶道宗家
クオールホールディングス
山田合同事務所
〈九州〉
はやがわ
〈中国〉
合人社グループ
〈東北〉
熊谷組

※文は稲野ななせ、有留貴博、写真は上田尚紀が担当しました。